



驚異的な繁殖力で密生する。
他の植物を覆いつくして光を遮る。



ハート型の葉がツルから1枚ずつ生える。
ウリ科植物特有の巻ヒゲがある。



白い花が咲き、雄花と雌花がある。
花期は8月～9月。



金平糖状の果実には鋭いトゲが密生する。
1株から5千～2万もの果実がつく。

北米原産。大型のツル植物で、日当たりのいい河原や土手に広がる。葉やツルはざらつき、ツルには白い毛が生え、ウリ科植物特有の巻ヒゲで他の植物に絡みつ、驚異的な生育速度と繁殖力で密生する。冬になると枯死する。(1年草)

特 徴

葉：ハート型の五角形の大型の葉がツルから1本ずつ伸びる。

巻ヒゲ：葉と対生するように巻きヒゲを伸ばし、他の植物に絡みつ。

ツル：ウリ科の植物らしく、10m近くにもなる長いツルを伸ばす。白い毛が生える。

花：白い花が咲き、球状の雌花と、球状にならない雄花がある。花期8月～9月。

果実：金平糖状の果実には鋭いトゲが密生する。1cm程度の果実に1つの種子がある。

根：根は深く張るが小さい。

生 態

5月～10月まで芽生えの時期があり、成長が著しく旺盛で、他の植物にツルで絡みつき、覆い尽くして光を遮る。8月中旬～9月中旬頃、日が短くなる時期に白い花が咲く。9月中旬には1株に5千～2万もの果実がつき、落果したものの7割が発芽する。種子は休眠性で、土の中に長期にわたって残り、発芽の機会を待つことができる。冬には枯死するが、ツルは絡み合ったまま残る。

拡散の原因

1955年に静岡県清水港で初めて発見され、その後青森県以南の全国各地に広がった。客土がアレチウリ拡散の主原因であり、休眠種子が工事残土や埋め戻し土砂の移動と共に生育地を広げていった。農地では畑の土の入れ替えなどが原因の場合が多い。

被 害

1粒の種子から500m四方にも伸びるといわれる繁殖力で、他の植物を覆い尽くすため、周辺がアレチウリに占められ、生態系を著しく単純化させてしまう。立木に絡み付いて枯らす力がある。農地では土の入れ替えなどの際に侵入し、農作物に被害を与えるおそれがある。

駆除方法

根は小さいが深く張るため、除草剤を撒いても効果が薄い。根から抜き取るのが最善の方法。1年草であり、種子が落ちなければ翌年生える確立は低いので、花期の前なら機械で刈り倒してもよい。種子も遠くまで飛ばない。4月～5月の早い時期に啓発を行い、芽生えのうちに抜き取るようにする。

在来種(クズ)との見分け方

特定外来生物であるアレチウリと、在来種のクズは同じような場所に生え、同じような生態をしている。クズは生態系に悪影響を与えるものではないが、他の植物を覆って光を遮る。



アレチウリ（ウリ科）

- ・ツルから1枚ずつ五角形の葉が生える。
- ・ツルには白い毛が生える。
- ・ウリ科特有の巻ヒゲがある。
- ・根は深く張るが小さい。



クズ（マメ科）

- ・ツルから3枚1組の葉が生える。
- ・ツルには黒っぽい毛が生える。
- ・巻ヒゲはない。
- ・根は大きく、葛粉が取れる。